



GREEN LETTER

グリーンレター

Vol. 284

2020/10/01

今月の一枚

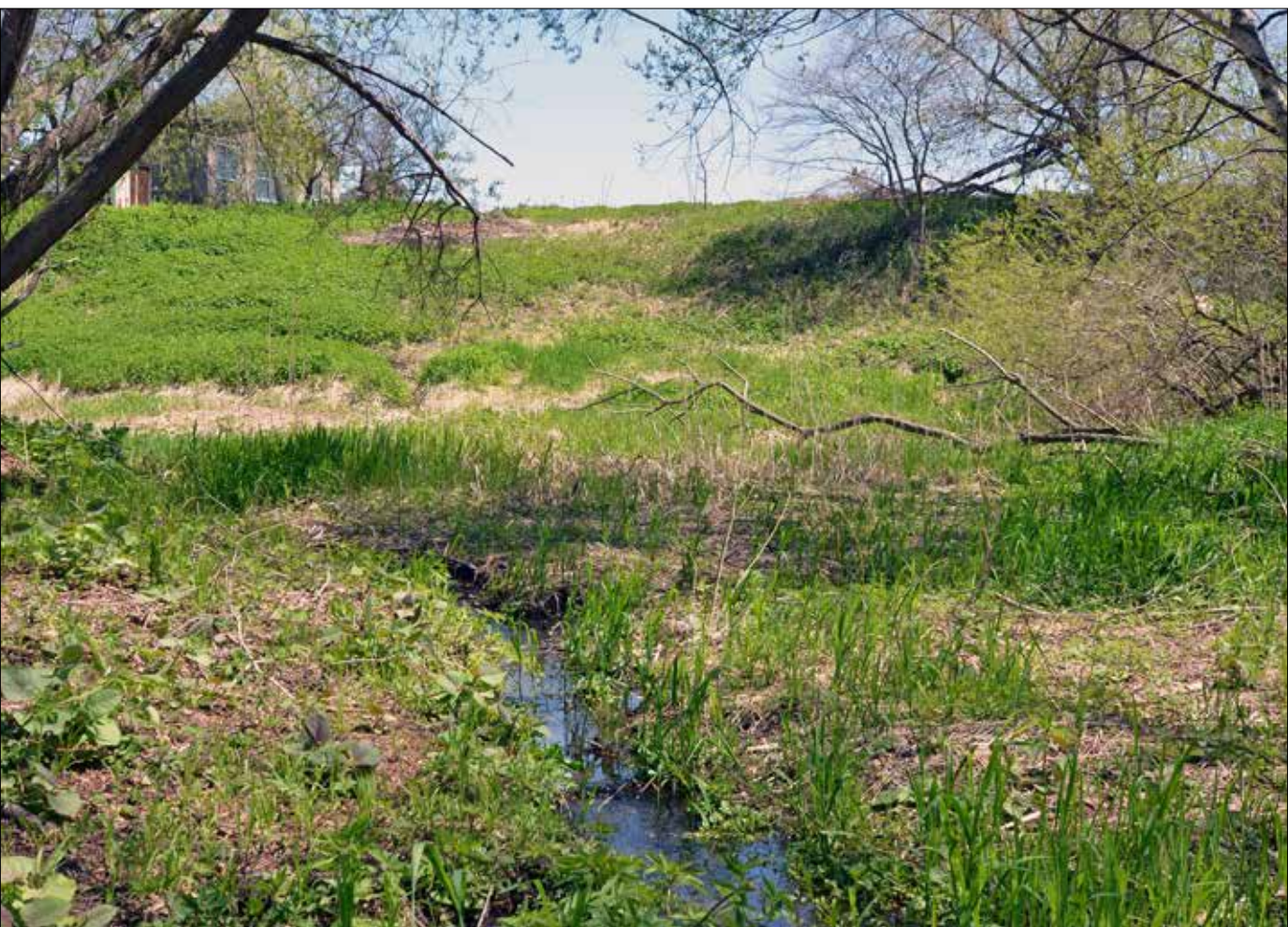
今月のイベント

参加者募集

GREEN COLUMN

01. 明治時代の風景

02. 植物標本と古新聞



今月の一枚



「命の湧き水」

表紙写真・文／八重柏誠

美幌町の元町地区には現在、8カ所の遺跡が確認されています。古くは、1万年以上も前までさかのぼることができる旧石器時代から続く、様々な時代の遺物や遺構が発見されています。そんな元町周辺を散策すると、今でも段丘の麓から水が湧き出ています。元町に多くの遺跡が残されているのは、飲み水となる湧き水が豊富にあったからなのかもしれません。

Event. 今月のイベント

特別展「写真家 前川貴行の生き物バンザイ！」～11月25日(日)

ロビー展「海がないのにナゼ!?びほろの海鳥とオホーツクのアホウドリ」
～11月29日(日)

開館記念日(無料開館) 10月4日(日)

プチ工房「ハロウィンのがま口ポーチ」 10月16日(金), 17日(土)

博物館講座(歴史編)「松浦武四郎の足跡を巡る」10月24日(土)

Information. 参加者募集

プチ工房「ハロウィンのがま口ポーチ」

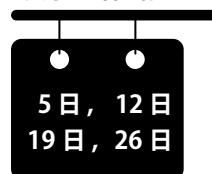
●10/16(金), 17(土) ①10:00 開始, ②11:00 開始, ③14:00 開始, ④15:00 開始 ●美幌博物館 1F 講座室 ●材料費(300円), マスク ●久保田結衣(美幌博物館) ●美幌博物館へ電話申込み(10/1-10/15)。小学3年生以下は保護者の同伴が必要。各回定員12名で締切。

博物館講座(歴史編)「松浦武四郎の足跡を巡る」

●10/24(土) 9:30-12:00 ●美幌町都橋(美幌川周辺) ●保険代(100円)、汚れてもよい服装、帽子、雨具、筆記用具、マスク ●鬼丸和幸(美幌博物館) ●美幌博物館へ電話申込み(10/1-10/21)。定員20名。対象は中学生から一般。小学生も参加可能ですが、保護者の同伴が必要。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、発熱がある、あるいは体調が優れない方のご参加は、お控えください。各イベントは、内容の変更や中止となる場合がございます。また、状況により、一時休館となることもございます。事前にお電話でお問い合わせの上、ご参加ください。

今月の休館日



〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用, 持ち物 ●講師 ●申込み方法

01 GREEN COLUMN グリーンコラム

明治時代の 風景

写真／美幌博物館・文／八重柏 誠



美幌に役場が設置されたのは、明治 20 年のこと。当時の役所は戸長役場と呼ばれており、美幌と津別を合わせた範囲を行政区域としていました。その戸長役場は当初、現在の元町地区の丘の上にあり、その麓には小さな集落が形成されていました。明治 36 年、現在の美幌大通周辺を新たな市街予定地とすることになったことから区画測量が行われ、明治 37 年に現在の美幌警察署付近に役場を移転することになりました。

今回紹介する写真は、役場が移転して間もない明治 39 年に、役場付近から北方向を撮影したとされるものです。左側には掲示板のようなものが写っており、この場所に戸長役場があったことを示すものでしょう。現在の場所と比較するならば、美幌警察署前の大通から北方向を見ているのと同じと考えてみてください。現在とは全

く異なる風景が広がっています。当時は数軒の建物があるのみ、現在と変わらないのは、大通の交差点から北方向が緩やかに下っていく坂道であることくらいです。さらにその奥には、手つかずの深い森が広がっています。役場設置以前の美幌は、奥に見えるような深い森に覆われていたのでしょう。

何もない市街地ですが、この後、数年ほどで急速に街並みが整えられていきます。明治 40 年に美幌から津別を経由し陸別までの道路が開通したこと、同じ頃に池田網走間の鉄道建設が始まり、明治 43 年に陸別駅が開業したことなど、陸路を使って美幌まで移動することが容易になっていったことが、移住者の増加要因となりました。そして、大正元年には美幌駅が開業し、人口が爆発的に急増していくことになります。

植物標本と 古新聞

写真・文／城坂結実



7月。熊本県で発生した豪雨の影響で、人吉城歴史館所蔵の植物標本約3万3千点が被災しました。人吉市の植物標本が収蔵されていた別館近くの河川が氾濫し、収蔵庫内に高さ2メートルまで水が入ったそうです。

植物標本の棚は水によって浮いて傾き、ほとんど全ての標本が水に濡れ、泥を被りました。水や泥で被われた植物標本は、そのままにしておくとカビが生え、腐敗してしまいます。そのため、7月から現在まで、全国の博物館や大学が、熊本県博物館ネットワークセンターに協力して標本を洗浄・修復する作業を行っています。

美幌博物館でも、約100点の植物標本を受け入れ、標本の泥を水で洗って落としたり、アルコールでカビを落としたりする作業を行いました。

人吉城歴史館からお預かりした約100点の標本は、数点ずつプラスチックの袋

に入っており、植物の種類名や採取された年月日が書かれたラベルが貼り付けられていました。またプラスチックの袋には、標本を採取・作成するときに使ったのであろう新聞紙も同封されていました。

写真は、標本に同封されていた1920年代の古新聞。作業当日に取材に来られた新聞社の方々は、そちらにも興味が湧いたようで、「昔の新聞は文字が小さかった。」とか「昔はこうやって新聞を印刷していたんだよ。」など、普段はなかなか聞けないお話をお聞きすることができました。最後には「古新聞を展示してください！」とのお言葉を頂戴しました。

展示できるかどうかはわかりませんが、古新聞も標本と同じように、カビを落として乾燥させました。しばらく美幌博物館で保管して、人吉市へ大切にお返ししたいと思います。

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実・八重柏誠・久保田結衣

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253-4

Tel / 0152 (72) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/bunya/museum/>

無断掲載・転載を禁ずる

学芸員のつぶやき



.....

ホームセンターの店先には色とりどりの園芸用の
花が置いてあります。北見市のホームセンターに、
モンシロチョウが蜜を吸いに来ていました。市街
地の昆虫は、食事をする場所も都会的ですね。

(城坂)